

## 「導入口ロボット名」導入による生産性の向上

### 課題

主な利用者は知的障がい者が主なので職員は介護の経験が少ないが、利用者の高齢化、ADLの低下により介護に慣れていない職員による身体介護が必要になってきている。転倒のリスクがある利用者を安全に入浴してもらい、職員の身体的な負担を軽減したい。

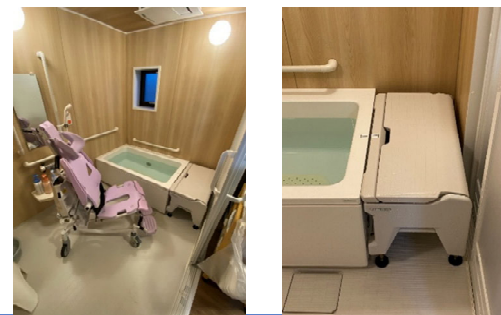
いうら リフト付き  
シャワーキャリー  
LS-500  
収納式レール  
LTC-100

### 機器導入

### 成果

- ①業務上の質の向上  
気持ちにゆとり、会話ができる余裕  
転倒のリスク減
- ②量的な効率化  
入浴のために職員配置を増加させなくて済む。一人で介助できるようになったため、他の利用者に対応できる時間も増えた。

※機器導入後の写真は女性の入浴介助を伴いますので添付の設置写真をご確認ください。



## ロボット機器等を導入した業務内容(概要)

脱衣してシャワーキャリーに移乗してもらう。浴室へシャワーキャリーで移動。シャワーキャリー上で洗髪、洗体。シャワーキャリーに乗ったままレールに繋げて浴槽へ浸かってもらう。肩まで浸かれないので肩にお湯をかけて冷えないようにする。レールを使って浴槽から出てもらい、シャワーキャリーに乗ったままで脱衣スペースに移動する。脱衣所で身体を拭いて着替えを済ませる。髪の毛を乾かす。

## 職員の声など

### 【良かった点】

半身が動かず、不安定な利用者が片方の足を痛めたり、足を上げることができず、今のままではシャワー浴も難しい日もあるので、キャリーがあることで移動と入浴の際の負担が軽減された。

### 【悪かった点】

キャリーが大きいので脱衣所と浴室が広めなので使えているが狭いと使いづらい。

キャリーが重くレールの結合が難しく。

キャリーの厚みがあり肩までお湯がかからない。

### 【今後の課題】

キャリーがあることで安定感があり、動けるので気を引こうとして転倒にリスクがあるため、無茶をしないように関わることが必要。